

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690300102		
法人名	医療法人松風会		
事業所名	グループホーム はまど		
所在地	徳島県小松島市和田島町字浜塚132番地3		
自己評価作成日	令和3年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和3年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者が家庭的な雰囲気の中で穏やかな生活を過ごしていただけるように、また、家族様が安心して当施設を選んでいただけるように下記の項目に力を入れています。</p> <p>①多職種(看護師・管理栄養士・介護士)が連携して、入居者様の心身の健康管理に努めている。</p> <p>②職員の知識・技術の向上のため月1回の勉強会(グループホーム勉強会、栄養に関する勉強会、院内研修・看介護研修)、その他の外部の研修にも不定期に参加している。</p> <p>③家族様面会時には積極的に関わりを持ち、話しや相談がしやすい関係作りを努めている。明和苑ホームページに毎月の活動内容や行事・レクカレンダーを「はまど通信」で紹介している。</p> <p>④新型コロナウイルス感染対策を行いつつ、行事やレクリエーションを積極的に提案している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、近隣に海や川がある自然に恵まれた環境に立地している。同一敷地内に、5つの施設・サービス事業所が併設している。協力医療機関を含め、連携・協力をし、利用者の生活の質の向上を図っている。理念に、“優しい施設”を掲げ、管理者のリーダーシップのもと、事業所が家庭的で笑いのある場所となるように、利用者とのふれあいを大切にされた支援に努めている。感染症(コロナ等)の流行下においても、ホームページや併設施設の掲示等で事業所の活動を報告することで、地域への情報発信に努めている。食事は、利用者一人ひとりに応じた食事形態や品数、量等に配慮している。定期的に栄養に関する勉強会等を開催し、職員が、新しい知識や技術を身につける機会を設けている。日常生活や医療、防災、感染症等において、利用者や家族等の安心・安全に繋げている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			しおさい 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り掲げている。毎年、理念を元に施設の目標を作成し、これを事務所内に掲示し職員の行動指針としている。ケースカンファレンスにおいても理念に沿った支援ができるように職員全体で話し合っている。	事業所は、法人の理念をもとに「優しい施設」という理念を掲げている。毎年、職員間で話しあい、理念にもとづいた目標を作成している。管理者は、職員間での理念の浸透を重要視し、勉強会や職員面談の機会を利用し、理念にそった支援ができていくか確認することで、共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ボランティアの受け入れや地域の方が参加しての行事等を企画したが、新型コロナウイルス感染予防のため実現できていない。初詣と花見には少人数のグループで近所の神社へ出かけたが地域の方との交流は行っていない。	事業所では、併設の他サービス施設に、行事の写真等を掲示し、地域住民に事業所の活動を報告している。地域の民生委員と話をするなどして、地域の情報を得ている。管理者は、地域で認知症サポーター講座を開催するために、キャラバン・メイト養成研修を修了し、地域の認知症に関する理解を深める活動を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症の方への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に地域住民の代表、入居者のご家族様、小松島市介護福祉課、小松島市地域包括支援センター、小松島市内のグループホームに参加して頂き開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染予防の為、書面会議となっている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行に伴い、事業所の報告や時節のテーマにそった資料を各委員に送付し、意見をj得ている。近隣の家族等や民生委員には、資料を持参し、説明・意見交換をしている。出された意見等は、職員間で共有し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類提出(1~3回/月)の際には窓口に出向き直接話しをするようにし情報の提供や収集に努めている。疑問が生じた際には電話や窓口で尋ねるようにしている。	管理者は、定期的に市の担当窓口を訪問し、事業所の報告や相談を行っている。電話やメールも活用し、連携を図っている。市の介護保険事業計画等策定委員会にも参加し、協働関係を築いている。地域包括支援センターとも相談・連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	松風会(江藤病院・江藤ケアセンター)開催の身体抑制禁止委員会(月1回)に参加していたが、今年9月より江藤ケアセンターの各施設が虐待防止検討委員会を立ち上げ、合同で身体拘束しないケアに取り組んでいる。	事業所では、定期的に身体拘束に関する勉強会や委員会を開催し、職員の意識の統一化を図っている。見守る姿勢を大切にし、外出の希望には、付きそうなどして、利用者の気持ちに寄りそいつつ、閉塞感のない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待は人権侵害であり、犯罪行為であるということをすべての職員が認識し、日頃の業務に就いている。また、定期的に勉強会を開催して高齢者虐待に関して学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			しおさい 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業・成年後見制度を理解し、アドバイス等ができるように、虐待防止検討委員会主催の勉強会プログラムに取り入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や改定の際にはゆっくりと時間を取り、内容を読み上げ説明を行い同意を得ることを基本としているが、キーパーソンが県外に居る等で直接会えない場合などは、書面・電話等で契約内容を詳しく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口担当者、解決責任者をおき、重要事項説明書に明記、契約時に何かあればいつでも相談して欲しい旨を伝えている。また、電話連絡時や家族様の面会時にも、ご意見やご要望を伺うようにしている。	事業所では、職員が利用者と関わる時間を多く取ることができるよう、業務改善に努めている。家族等とは、意見を伝えやすい関係づくりに努め、面会や電話連絡の際に、意見を聞いている。出された意見等は、職員間で話しあい、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや部署会議、申し送りノート活用し職員の意見を聞き、取り入れるようにしている。また、管理者は定期的に会議に出席し代表者と話し合いの場を持っている。	管理者は、職員が意見や要望を伝えやすい関係づくりに努めている。定期的なカンファレンスや個別面談など、意見を聞く機会を設けている。職員の意見や提案は、管理者が代表者へ伝え、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力を見極め役割を持つことで、やりがいをもち意欲的に業務に就くことができると考える。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修(月3回程度)や法人外の研修(不定期)に参加し、必要な知識の習得に努めている。法人内の研修に当日参加できなかった人は資料学習を行い、全職員がレポートを提出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等への参加を通して、他事業所の職員と交流する機会を設けている。また、情報を共有することで、お互いの事業所のサービスの質が向上できると考える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			しおさい 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用に至るまでに、面談する機会を設け、本人の悩みや希望を伺うことを基本としているが、新型コロナウイルス感染予防のため、他施設入居中の方との入居前面談ができず、担当者や居宅ケアマネから情報収集を行った。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用に至るまでに、ゆっくりと面談をする機会を設け、家族の困っていることや悩み・希望を伺い、意向に沿えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が今どのような支援を必要としているかを見極め、意向に沿った対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員は共に過ごす仲間としてとらえ、一方的に支援するのではなく、入居者自身も役割のある生活が過ごせるように、居室清掃や洗濯物たたみ等を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には職員と家族が情報共有できるよう会話・近況報告を行っている。なお、県外等に居られて面会できない家族には、定期的に電話やビデオ通話等で対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会が定期的にある。ビデオ通話で孫と話されたり、孫やひ孫の写真を部屋に飾らせていただいたりしている。地元の入居者の方と以前歩いた散歩コースを一緒に出かけることもある。	事業所では、手紙や電話を取り次いだり、近隣の馴染みの神社や浜辺等に散歩したりして、利用者の馴染みの人や場所との関係継続に努めている。感染症の流行に伴い、ビデオ通話等を活用し、面会を受け入れている。職員は、昔の写真を活用し、利用者と一緒に会話をするなど、馴染みの関係が途切れることのないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	エレベーターホールの椅子に座っていつも数人の方が談笑されています。おやつ後には、職員を囲んだ小グループに分かれて脳トレや作業・会話を楽しまれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			しおさい 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても相談等があれば話しをお伺いし、退居されても関係を断ち切らない支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話を大切にし、日常の何気ない会話から希望や意見を伺うようにしている。また、会話等が困難な方には、家族から以前の暮らし方や嗜好等を聞き、本人の意向を汲み取り対応するように努めている。	職員は、日ごとの利用者とかかわりのなかで、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者については、小さな変化や気づき等を大切にしている。家族等からも意見を聞き、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等を伺い、職員間で情報の共有を行っている。そして、それらの情報を会話のきっかけ作りや介護計画の立案や見直しに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや日々の観察、バイタルチェックを通して、入居者各自の心身の状態や1日の過ごし方、保有能力等を把握し、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、家族の面会時や電話で意見や要望を伺い、本人の意見も確認しながら介護計画を作成している。	事業所では、利用者一人ひとりのやりたいことや困っていることをニーズとした介護計画を作成している。計画には、家族等や医師、リハビリテーション関係者などの意見も反映している。定期的なモニタリングや見直しのほか、利用者の心身状況の変化に応じて見直しを行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は電子カルテに記録し、職員間での閲覧が可能となっている。また口頭での申し送りや申し送りノートを活用し職員間で情報を共有し、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の江藤ケアセンター(老健・老人ホーム・デイケア・デイサービス)各担当者と常に連携をとりながら、様々なニーズの対応ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			しおさい 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや地域の方との交流を企画し地域に根差した支援を目指していたが、新型コロナウイルス感染予防のため、実現できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向をお伺いした上で、希望し納得のいく医師に診ていただくことが可能である。また契約時に主治医を確認している。協力病院（江藤病院）への受診を希望される場合は、職員が付き添うことができる。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医への受診は、家族の協力を得ている。協力医療機関や併設施設と連携し、24時間対応可能な体制を整備するなど、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する江藤ケアセンターの看護師と連携して、入居者の日頃の健康管理や急変時の対応を行っている他、併設老健・協力病院（江藤病院）の看護師にも24時間相談・助言を求めることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行いスムーズな入院・情報把握ができるよう努めている。また、担当者と連携を図りながら、早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の主治医と連携を図りながら、入居者・家族の意向をお伺いし、最善の支援を考えるよう努めている。	入居時の段階で、利用者や家族等に重度化や終末期における事業所の方針について説明し、同意を得ている。利用者の心身状況の変化に応じて、家族等の意向を確認し、主治医と連携しつつ、支援している。また、重度化や緊急時の対応に関する勉強会を開催し、利用者が尊厳ある生活を送ることができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時には施設の看護師または、併設老健・協力病院看護師の助言のもと適切に対応している。なお、施設内でも緊急時の対応等について勉強する機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の江藤ケアセンター（老健・老人ホーム・デイケア・デイサービス）合同で年3回防火防災訓練を実施し、各施設間職員の協力体制を確認している。自主訓練や消防署立会いの下訓練を実施し、指導を仰いでいる。	年3回、消防署の協力を得て、日中と夜間における火災・津波等を想定した避難訓練を実施している。災害発生時は、併設施設との協力に加え、近隣在住の職員を参集する体制を整備している。防災用品や食料品等の備蓄を整備し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価	しおさい	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や更衣介助の時は声掛けや必ず居室のドアを閉める等プライバシーや羞恥心を損なわないように心がけている。特に、入居者の人格を尊重し入居者側に立った声掛けができるように接遇の研修を定期的に行っている。	事業所では、接遇やプライバシーに関する研修を開催している。職員は、排泄や更衣、入室など、日ごろの支援において、プライバシーの保護や一人ひとりの尊重に努めている。気づいたことは、職員間で注意しあったり、カンファレンス等で話しあったりして、支援の質の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に本人が選択できる機会を設け、思いや希望を伺っている。その時には、情報の提示や健康面のアドバイス等を行い自己決定がしやすいように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することなく、入居者のペースに合わせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容室(月1回)と契約しており、希望者には毛染めや希望の髪形を楽しんで頂いています。季節やその時の気分でお洒落を楽しまれている方も居られます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理は、施設側が調理していますが、定期的におやつ作りのイベントがあり、お団子やおはぎ、どら焼き等を職員と一緒に作っています。お団子を丸めることなどは、職員より上手な方が多く居られます。	事業所では、温度や食事形態に配慮し、食事を提供している。利用者の希望や好みを聞き取り、献立に反映している。週ごとに全国の郷土料理を取り入れたり、季節に応じた行事食を提供したりして、食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは栄養バランスを考えて作られていて、主菜・副菜(2品程度)・デザートと品数が多く目でも楽しませてくれます。食事摂取量は、毎食チェックしています。療養食や嚥下状態に合わせた食事にも必要に応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。自分で歯磨きや入れ歯の手入れが可能な方は行って頂き、難しい方は職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			しおさい 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えには、その都度トイレ誘導を行っている。また、訴えることが難しい方には、排泄のパターン等を把握し定期的に声掛けを行い、トイレでの排泄が気持ちよくできるように支援している。	事業所では、利用者の尊厳や心身機能における排泄の自立の重要性について、職員間で共有化を図っている。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中は、可能な限りトイレでの排泄を支援している。夜間は、利用者の希望や心身状況に応じてオムツを使用するなど、負担の軽減にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の回数や便の状態をチェックしており、必要時には、医師と相談して内服薬や浣腸による排便コントロールを行っている。また、便秘予防に繊維質の多い食事の提供や水分摂取の声掛け、昼食前の体操等を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回行っている。行事や体調不良、本人の希望等により入浴できない場合は、入浴日や入浴時間を変更し、ゆっくり入浴して頂けるように努めている。	事業所では、少なくとも週3回の入浴を支援している。入浴の回数や時間帯、同性介助等は、利用者の希望にあわせている。入浴を拒む利用者には、心身状況を考慮し、声かけやタイミングを変えるなどして、無理強いすることなく入浴を支援している。入浴剤等を使用して、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりが自分のペースに合わせた休息や睡眠がとれるように配慮している。眠れない時には、食堂やホールで話をしたり、温かい飲み物を提供し、リラックスできるように努め、入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、看護師が管理し、入居者一人ひとりの薬の内容(目的・用法・容量・副作用等)をファイルに収め、職員誰もが確認できる場所に保管している。また、協力病院以外の病院とも常時相談できる関係にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりが生き生きと過ごして頂けるように、各自の趣味嗜好にあった支援に努め、散歩や園芸、会話、工作などを楽しんで頂いています。また、洗濯物たたみなどの職員の手伝いも積極的にお願している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス流行下でのグループホーム開業となったため、家族や地域住民の方の協力を経ての外出の実績はありませんが、感染防止の制約の中で近所の神社への初詣や花見、散歩等に少人数のグループで出かけました。また、必要時の外出は家族や職員の支援で行っている。	事業所では、近隣の神社や花見に出かけたり、園芸活動を行ったりして、外気にふれる機会を設けている。感染状況等に配慮し、冠婚葬祭への出席を支援したこともある。外出気分を味わうことができるように、神社の鳥居やお神輿を作ったり、花火大会のDVDを見たりして、工夫している。感染症の終息後の外出支援についても計画中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			しおさい 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に利用者からのお金は預かっていない。買い物は、同一敷地内にある売店で購入することが可能。その場合は、入居者個人が管理しているお金やつけ払いで購入している。依頼があれば、職員が家族に必要な物品等を伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置していないため、電話は事務室の電話を使用していただいている。また、個人で携帯電話を持たれていて常に家族様に連絡されている方も居られます。届いた葉書や手紙を代読して、お伝えすることもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やホール・廊下には季節の作品や食事のメニュー表・ポスター・カレンダー等を飾り、建物内に居ても季節感や家庭的な温かさが感じられるように配慮している。廊下に展示している手作りの鳥居に手を合わせてお祈りする方もいます。	共用空間は、日当たりが良く、広々としている。利用者の作品や季節の飾りつけを行い、季節感や温かみのある空間となっている。感染対策にも気を配り、パーティションを配置したり、換気を行ったりして、安心・安全な共用空間となるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物の中央に食堂・ホールがあり、居室は東西に分かれて配置(3室は食堂に隣接)されている。気の合った仲間と食堂やホールで会話や作業を楽しまれたり、一人居室でゆっくりと過ごすことができます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	介護用ベット(3モーター低床タイプ)やチェストが備え付けられていますが、家具や電化製品などの持ち込みは可能です。お気に入りのソファに座ってコーヒータイムを楽しまれたり、家族の写真や思い出の品で飾ったりされています。	居室には、利用者のお気に入りの家具や小物、家族の写真等を持ち込んでもらっている。職員と一緒に清掃やリネン交換をする利用者もいる。利用者と一緒に、居心地が良く、その人らしい居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、車イスや歩行器でも安全に移動できるようになっている。トイレはすべて多目的用タイプ、浴室は一般浴室と機械浴室があり、その方の身体能力に応じて使用することができます。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さざなみ 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り掲げている。毎年、理念を元に施設の目標を作成し、これを事務所内に掲示し職員の行動指針としている。ケースカンファレンスにおいても理念に沿った支援ができるように職員全体で話し合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れや地域の方が参加しての行事等を企画したが、新型コロナウイルス感染予防のため実現できていない。初詣と花見には少人数のグループで近所の神社へ出かけたが地域の方との交流は行っていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症の方への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に地域住民の代表、入居者のご家族様、小松島市介護福祉課、小松島市地域包括支援センター、小松島市内のグループホームに参加して頂き開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染予防の為、書面会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出(1~3回/月)の際には窓口に向き直接話しをするようにし情報の提供や収集に努めている。疑問が生じた際には電話や窓口で尋ねるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	松風会(江藤病院・江藤ケアセンター)開催の身体抑制禁止委員会(月1回)に参加していたが、今年9月より江藤ケアセンターの各施設が虐待防止検討委員会を立ち上げ、合同で身体拘束しないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待は人権侵害であり、犯罪行為であるということをすべての職員が認識し、日頃の業務に就いている。また、定期的に勉強会を開催して高齢者虐待に関して学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さざなみ 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業・成年後見制度を理解し、アドバイス等ができるように、虐待防止検討委員会主催の勉強会プログラムに取り入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や改定の際にはゆっくりと時間を取り、内容を読み上げ説明を行い同意を得ることを基本としているが、キーパーソンが県外に居る等で直接会えない場合などは、書面・電話等で契約内容を詳しく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口担当者、解決責任者をおき、重要事項説明書に明記、契約時に何かあればいつでも相談して欲しい旨を伝えている。また、電話連絡時や家族様の面会時にも、ご意見やご要望を伺うようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや部署会議、申し送りノート活用し職員の意見を聞き、取り入れるようにしている。また、管理者は定期的に会議に出席し代表者と話し合いの場を持っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力を見極め役割を持つことで、やりがいを持ち意欲的に業務に就くことができると考える。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修(月3回程度)や法人外の研修(不定期)に参加し、必要な知識の習得に努めている。法人内の研修に当日参加できなかった人は資料学習を行い、全職員がレポートを提出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等への参加を通して、他事業所の職員と交流する機会を設けている。また、情報を共有することで、お互いの事業所のサービスの質が向上できると考える。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さざなみ 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用に至るまでに、面談する機会を設け、本人の悩みや希望を伺うことを基本としているが、新型コロナウイルス感染予防のため、他施設入居中の方との入居前面談ができず、担当者や居宅ケアマネから情報収集を行った。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用に至るまでに、ゆっくりと面談をする機会を設け、家族の困っていることや悩み・希望を伺い、意向に沿えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が今どのような支援を必要としているかを見極め、意向に沿った対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員は共に過ごす仲間としてとらえ、一方的に支援するのではなく、入居者自身も役割のある生活が過ごせるように、居室清掃や洗濯物たたみ等を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には職員と家族が情報共有できるような会話・近況報告を行っている。なお、県外等に居られて面会できない家族には、定期的に電話やビデオ通話等で対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会が定期的にある。ビデオ通話で孫と話されたり、孫やひ孫の写真を部屋に飾らせていただいたりしている。地元の入居者の方と以前歩いた散歩コースを一緒に出かけることもある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	エレベーターホールの椅子に座っていつも数人の方が談笑されています。おやつ後には、職員を囲んだ小グループに分かれて脳トレや作業・会話を楽しまれています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さざなみ 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても相談等があれば話しをお伺いし、退居されても関係を断ち切らない支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話を大切にし、日常の何気ない会話から希望や意見を伺うようにしている。また、会話等が困難な方には、家族から以前の暮らし方や嗜好等を聞き、本人の意向を汲み取り対応するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等を伺い、職員間で情報の共有を行っている。そして、それらの情報を会話のきっかけ作りや介護計画の立案や見直しに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや日々の観察、バイタルチェックを通して、入居者各自の心身の状態や1日の過ごし方、保有能力等を把握し、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、家族の面会時や電話で意見や要望を伺い、本人の意見も確認しながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は電子カルテに記録し、職員間での閲覧が可能となっている。また口頭での申し送りや申し送りノートを活用し職員間で情報を共有し、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の江藤ケアセンター(老健・老人ホーム・デイケア・デイサービス)各担当者と常に連携をとりながら、様々なニーズの対応ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さざなみ 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや地域の方との交流を企画し地域に根差した支援を目指していたが、新型コロナウイルス感染予防のため、実現できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向をお伺いした上で、希望し納得のいく医師に診ていただくことが可能である。また契約時に主治医を確認している。協力病院(江藤病院)への受診を希望される場合は、職員が付き添うことができる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する江藤ケアセンターの看護師と連携して、入居者の日頃の健康管理や急変時の対応を行っている他、併設老健・協力病院(江藤病院)の看護師にも24時間相談・助言を求めることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行いスムーズな入院・情報把握ができるよう努めている。また、担当者と連携を図りながら、早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の主治医と連携を図りながら、入居者・家族の意向をお伺いし、最善の支援を考えるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時には施設の看護師または、併設老健・協力病院看護師の助言のもと適切に対応している。なお、施設内でも緊急時の対応等について勉強する機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の江藤ケアセンター(老健・老人ホーム・デイケア・デイサービス)合同で年3回防火防災訓練を実施し、各施設間職員の協力体制を確認している。自主訓練や消防署立会いの下訓練を実施し、指導を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さざなみ 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や更衣介助の時は声掛けや必ず居室のドアを閉める等プライバシーや羞恥心を損なわないように心がけている。特に、入居者の人格を尊重し入居者側に立った声掛けができるように接遇の研修を定期的に行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に本人が選択できる機会を設け、思いや希望を伺っている。その時には、情報の提示や健康面のアドバイス等を行い自己決定がしやすいように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することなく、入居者のペースに合わせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容室(月1回)と契約しており、希望者には毛染めや希望の髪形を楽しんで頂いています。季節やその時の気分でお洒落を楽しまれている方も居られます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理は、施設側が調理していますが、定期的におやつ作りのイベントがあり、お団子やおはぎ、どら焼き等を職員と一緒に作っています。お団子を丸めることなどは、職員より上手な方が多く居られます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは栄養バランスを考えて作られていて、主菜・副菜(2品程度)・デザートと品数が多く目でも楽しませてくれます。食事摂取量は、毎食チェックしています。療養食や嚥下状態に合わせた食事にも必要に応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。自分で歯磨きや入れ歯の手入れが可能な方は行って頂き、難しい方は職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さざなみ 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えには、その都度トイレ誘導を行っている。また、訴えることが難しい方には、排泄のパターン等を把握し定期的に声掛けを行い、トイレでの排泄が気持ちよくできるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の回数や便の状態をチェックしており、必要時には、医師と相談して内服薬や浣腸による排便コントロールを行っている。また、便秘予防に繊維質の多い食事の提供や水分摂取の声掛け、昼食前の体操等を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回行っている。行事や体調不良、本人の希望等により入浴できない場合は、入浴日や入浴時間を変更し、ゆっくり入浴して頂けるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりが自分のペースに合わせた休息や睡眠がとれるように配慮している。眠れない時には、食堂やホールで話をしたり、温かい飲み物を提供し、リラックスできるように努め、入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、看護師が管理し、入居者一人ひとりの薬の内容(目的・用法・容量・副作用等)をファイルに収め、職員誰もが確認できる場所に保管している。また、協力病院以外の病院とも常時相談できる関係にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりが生き生きと過ごして頂けるように、各自の趣味嗜好にあった支援に努め、散歩や園芸、会話、工作などを楽しんで頂いています。また、洗濯物たたみなどの職員の手伝いも積極的にお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス流行下でのグループホーム開業となったため、家族や地域住民の方の協力を経ての外出の実績はありませんが、感染防止の制約の中で近所の神社への初詣や花見、散歩等に少人数のグループで出かけました。また、必要時の外出は家族や職員の支援で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さざなみ 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に利用者からのお金は預かっていない。買い物は、同一敷地内にある売店で購入することが可能。その場合は、入居者個人が管理しているお金やつけ払いで購入している。依頼があれば、職員が家族に必要な物品等を伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置していないため、電話は事務室の電話を使用していただいている。また、個人で携帯電話を持たれていて常に家族様に連絡されている方も居られます。届いた葉書や手紙を代読して、お伝えすることもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やホール・廊下には季節の作品や食事のメニュー表・ポスター・カレンダー等を飾り、建物内に居ても季節感や家庭的な温かさが感じられるように配慮している。廊下に展示している手作りの鳥居に手を合わせてお祈りする方もいます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物の中央に食堂・ホールがあり、居室は東西に分かれて配置(3室は食堂に隣接)されている。気の合った仲間と食堂やホールで会話や作業を楽しまれたり、一人居室でゆっくりと過ごすことができます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	介護用ベット(3モーター低床タイプ)やチェストが備え付けられていますが、家具や電化製品などの持ち込みは可能です。お気に入りのソファに座ってコーヒータイムを楽しまれたり、家族の写真や思い出の品で飾ったりされています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、車イスや歩行器でも安全に移動できるようになっている。トイレはすべて多目的用タイプ、浴室は一般浴室と機械浴室があり、その方の身体能力に応じて使用することができます。		